

論文が書けない私へ

岩田 幸良*

私は土壌凍結地帯の水の動きについて研究しているのですが、冬に畑で雪をうまく採取できると嬉しかったり、夏に穴を掘って土壌を採取したりすることが楽しかったり、そういうことが楽しくて研究をやっているようなもので、研究を進める上での信条や、わくわくするような貴重な経験がほとんどありません。また、皆様を愉快にするような、気のきいた文章を書けるような人間でもありません。そこで、何を書いたら良いか困ってしまうのですが、土壌の物理性は学会誌なので、困ったついでに私が論文を書く上で困っていることについて書いてみたいと思います。

私の所属している試験場にも業績評価が導入されて、論文を書くことが重視されるようになり、①たくさん論文を書くこと、②国際誌に書くこと、③インパクトファクターの高い雑誌に載せること、が求められているようです。しかし、いくらこのような風潮に従おうとして、たくさん、あるいは国際誌を目指して論文を書こうと努力しても、途中で挫折してしまい暗い気持ちになることの連続です。なぜ、私は論文が書けないのか？ この問題を考えるために、論文を書く気がある状態からすっかり書く気が無くなる状態に移行する3つの例を考えてみました（私は野外観測が研究のほとんどなので、野外で観測したデータをまとめて論文にする、ということを前提にしました）。

例え話1: まず、論文になりそうなアイデアが浮かび、論文を書くためにデータの解析を始めました。しかし、解析が進むうちにどんどんアアが見えてきて、これは論文にしてもリジェクトが確実なのではないか、と不安に駆られました。暗い顔で昼ごはんを食べていると、職場の若い人はみんなどんどん有名な雑誌に論文を出している、という話題になり、自分はどうせいい論文なんて書けないよ、とイジケました。さらに、もっと研究のスタイルを変えた方がたくさん論文が書けるようになるのではないか、というアドバイスに、やっぱり俺の研究の進め方が悪いのか、と、もう、気分はどん底で、もう論文なんて書か、と投げやりになりました。

解説1: この話のやる気の無くなるポイントは、①リジェクトになる不安、②周囲の人との比較による劣等感、③周囲の意見による自信の喪失、といったことで

しょうか。

例え話2: とりあえず、観測したデータをグラフにまとめてみたら、結構きれいな図になりました。先輩にみせると、これは良いデータだからぜひ国際誌に出すべきだ、というアドバイスをもらい、すっかりやる気になって論文を書くことに着手しました。図書館の国際誌をみると、どの論文もかなりのボリュームがありました。そこで、論文にするためには長く書く必要があると思い、いろいろとデータをいじくっていたら思考が変な方向に行き、自分でも何を書いているのかわからない状態になりました。そして、訳のわからない初稿が出来上がり、先輩にみせたら、こりゃなんだかわからん、と言われ、ボツになりました。

解説2: この話のやる気の無くなるポイントは、①論文は長く書かないといけない、という思い込み、②そもそも論文を書く目的を理解していなかった、③無駄な解析による徒労感、といったところでしょうか。

例え話3: なんとなく観測を続けていたら、かなりの量のデータが集まりました。そこで、このデータを論文にしないといけないと思い、論文の構想を練り始めました。データAとBを一緒にすると良い論文になりそうだけれど、たくさん論文を書かないといけないから、AとBを別々にして2本の論文を書こうと決意しました。最初、データAを解析して論文を書き始めましたが、今ひとつインパクトに欠ける議論しかできませんでした。そこで、中断してデータBで論文を書いてみましたが、書いていておもしろくなく、筆が全く進みません。それで、何もかも嫌になってしまい、結局書くのを止めてしまいました。

解説3: この話のやる気の無くなるポイントは、必要以上に論文を書こうということに尽きるのではないのでしょうか。

これらの例をみると、審査の厳しい雑誌に投稿したい、だけどリジェクトは嫌だ、しかも小分けにしてたくさん論文を書きたい、という、そんな虫の良い話が展開されています。また、自分の信念をしっかりとっていないため、周囲の評価を気にしすぎ、周囲の意見に振り回

*北海道農業研究センター畑作研究部、〒082-0071 北海道河西郡芽室町新生

されているようです。よく、論文はアイデアだから書き方次第で良くも悪くもなる、といいますが、それは論文を書きなれた人か、論文を書く才能に恵まれた人の話で、なかなか論文の書けない私には当てはまらないようです。

こんな私でも、人から、あるいは文章を通して、他人の意見に触れることで論文を書こうという気になることもあります。その中から、私が特に印象に残っている、やる気の出た言葉を3つ挙げてみます。

・お前も俺も優秀じゃあないんだから、前座のようなつもりで論文を書けばいいんだ

論文を書いていて行き詰まって落ち込んでいるときに、先輩に相談したら、以前、その先輩も「大作を書くように気負わず、前座のようなつもりで、掴みはOK!、程度の論文を書けばいいんだ」、という内容のアドバイスをもらった、という話をしてくれました。前座とは先駆者、だれもやっていないようなオリジナリティのあるおもしろい研究をしろ、という意味も含まれているのかもしれませんが、前座程度でいいんだと考えて、気楽に書けるような気がしてきます。

・リジェクトされたら読者が見る目が無かったと思え

実際にはそうでは無い場合も多いのかもしれませんが、独創的な研究などはその真価がなかなか見抜けない場合がある、ということも言われます。いずれにしても、リジェクトが怖い私は、この言葉でずいぶんと気が楽になります。

・書かないより書いた方がマシ

自分の思考の整理になるし、どんなものでも書かないで眠らしておいたら人の役には立たない。恥は書くかもしれないけれど、どんなものでも書いてみる、という考え方は、良いものを書かないとダメだ、という気持ちを

和らげてくれます。

人にアドバイスすることは難しいことだと思います。例えば、「英語で論文を書くにはたくさん論文を読まなければならない。自分は学生時代に非常にたくさん論文を読んできたから英語で論文が書けるようになった。」という言葉聞いて、私は学生時代にほとんど英語の論文を読んでいないから国際誌には書けないのではないかと悩んだことがあります。人それぞれ、良いアドバイスは違うのでしょう。優秀な研究者には、ただ、良い論文をたくさん書け、というだけでよいのかもしれませんが。しかし、私にとっては、それだけではどうしたらよいのかさっぱりわからず、おろおろとするばかりです。そこで、私のような人間にける良い言葉を自分で考えてみました。

「論文は書け(言われないと一生書きそうもないから)。だけど、たくさん書くな(調子に乗ってたくさん書こうとして失敗するのは目に見えているから)。人がどれだけ成果を挙げていようと気にすることは無いさ(そんなことで落ち込んでいる暇があれば論文を書け)。人がなんと云おうと、気にすること無いさ(自分を持て)。良い論文なんて書こうと思わずに、とにかく書いてみる(能力ないんだから、良い論文なんて最初から書けるわけ無いだろ)。」注：括弧内の言葉は心の声です。

これからどんどん競争が厳しくなり、優秀な研究者しかいなくなる時代が来るかもしれませんが、万が一、私が将来も研究を続けていて、論文を書けなくて悩んでいる研究者にアドバイスを求められることがあれば、このように答えようかと思っております。

受稿年月日：2005年5月25日

受理年月日：2005年5月25日